

# 宮 城 県 の 経 済 動 向

平 成 1 8 年 第 4 四 半 期

( 1 0 月 ~ 1 2 月 期 )

## 本県の経済概況

平成 18 年第 4 四半期（10 月～12 月期）の宮城県経済の動向をみると、生産は、緩やかな上昇傾向にある。住宅投資は、持家は低調ではあるが、全体としては増加傾向にある。公共投資は低調である。個人消費は、一部に持ち直しの動きもみられるが低調である。雇用は、改善の動きがみられる。企業倒産は、件数、負債総額ともに減少となった。

このように、景気は緩やかな持ち直しの動きを続けている。

[ 前期（平成 18 年 7 月～9 月期）の概況 ]

生産は、緩やかな上昇傾向にある。住宅投資は、持家は低調ではあるが、貸家や分譲住宅は増加している。公共投資は低調である。個人消費は、一部に持ち直しの動きもみられるが低調である。雇用は、改善の動きにやや足踏み感がうかがわれる。企業倒産は、件数、負債総額ともに減少となった。

このように、景気は緩やかな持ち直しの動きを続けている。

### 生 産

鉱工業生産指数は、前年同期比が 5 期連続の上昇となった。大口電力使用量は、前年同期比が 12 期連続の増加となった。

### 住宅投資

新設住宅着工戸数は、前年同期比が持家は 2 期連続の減少、貸家は 11 期連続の増加、分譲住宅は 2 期ぶりに減少となった。

全体では 11 期連続の増加となった。

### 公共投資

公共工事請負金額の発注主体別の前年同期比は、国が 2 期連続の減少、県が 2 期連続の増加、市町村が 3 期連続の減少となった。

全体では 15 期連続の減少となった。

### 大型小売店

大型小売店販売額（百貨店・スーパーの販売額の合計。既存店比較）は、前年同期比が 29 期連続の減少となった。百貨店は前年同期比が 5 期ぶりに減少となった。スーパーは前年同期比が 29 期連続の減少となった。

### 自 動 車

軽自動車の新車届出台数を含む乗用車新車登録台数は、前年同期比が 3 期ぶりに増加となった。普通車は前年同期比が 8 期ぶりに増加、小型車は前年同期比が 3 期連続の減少、軽自動車は前年同期比が 7 期連続の増加となった。

### 物 価

仙台市消費者物価指数は、総合指数は、前年同期比が 4 期連続の上昇となった。食料（酒類を除く）及びエネルギーを除く総合指数は、前年同期比が 4 期連続の低下となった。

### 雇 用

有効求人倍率（原数値）は、前年同期差が 4 期連続の上昇となった。新規求人倍率（原数値）は、前年同期差が 4 期連続の上昇となった。

実質賃金指数（製造業・30 人以上）は、前年同期比が 2 期ぶりに上昇となった。

### 企業倒産

企業倒産は、件数は前年同期比が 3 期連続の減少となった。負債総額は前年同期比が 2 期連続の減少となった。

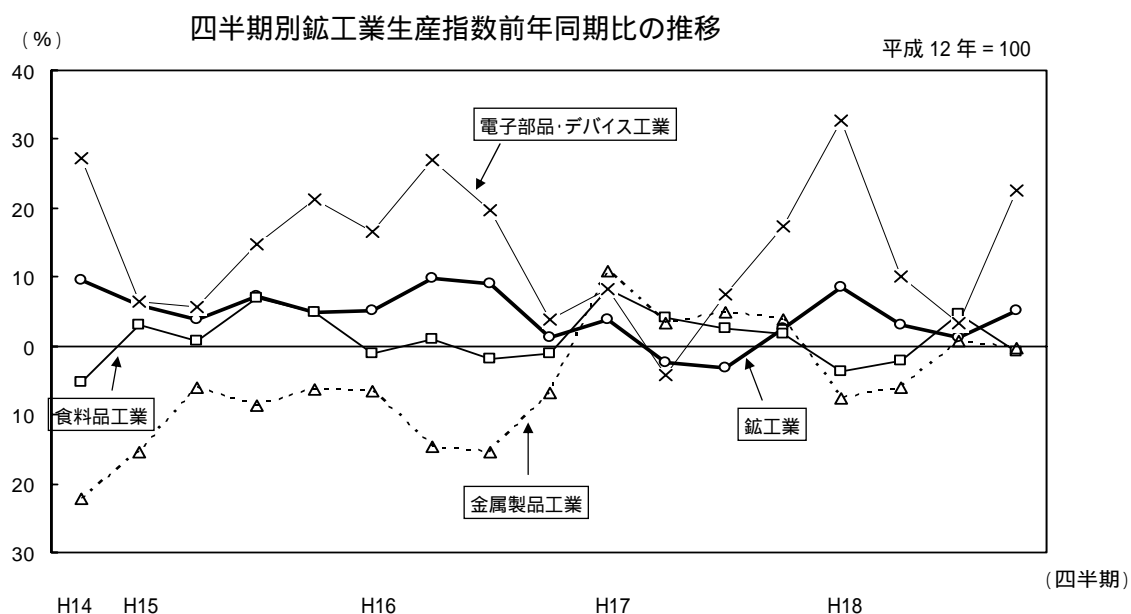
# 生産

## (1) 鉱工業生産指数

平成18年第4四半期(10月～12月期)の鉱工業生産指数(季節調整済)は112.8(平成12年=100)で、前年同期比(原指数での比較)5.3%の上昇となり、5期連続の上昇となった。

ウェイトの大きい業種を中心にみると、電子部品・デバイス工業は前年同期比が22.5%の上昇となり、6期連続の上昇となった。パルプ・紙・紙加工品工業は前年同期比が1.2%の上昇となり、2期連続の上昇となった。一般機械工業は前年同期比が12.7%の上昇となり、平成17年第2四半期以降、7期連続の上昇となった。

一方で、食料品工業は前年同期比が0.9%の低下となり、2期ぶりに低下となった。金属製品工業は前年同期比が0.3%の低下となり、2期ぶりに低下となった。電気機械工業は前年同期比が13.0%の低下となり、3期連続の低下となった。

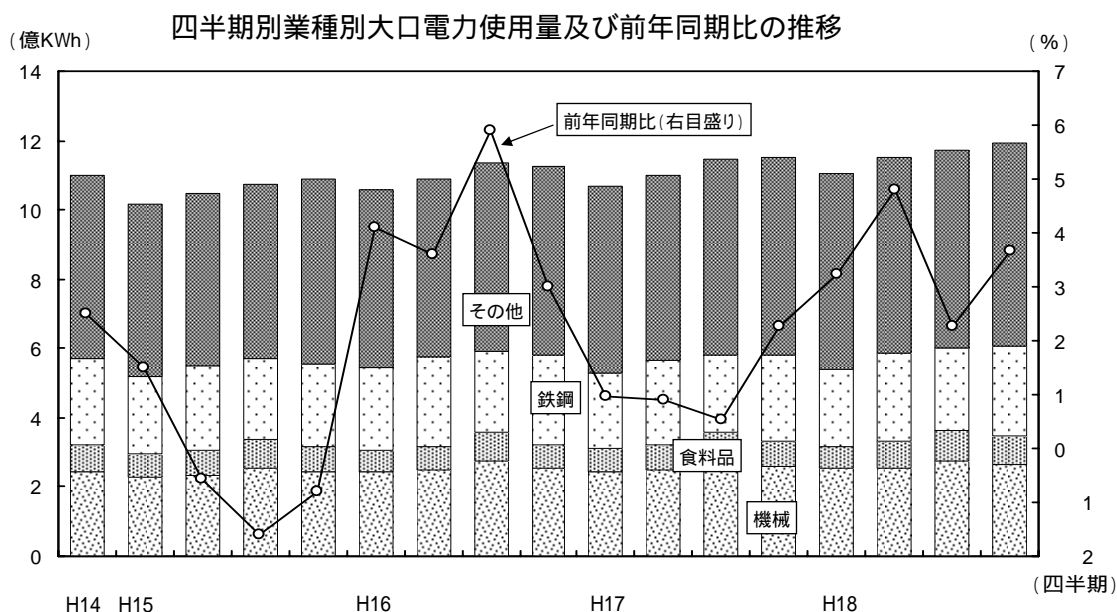


(資料:宮城県統計課)

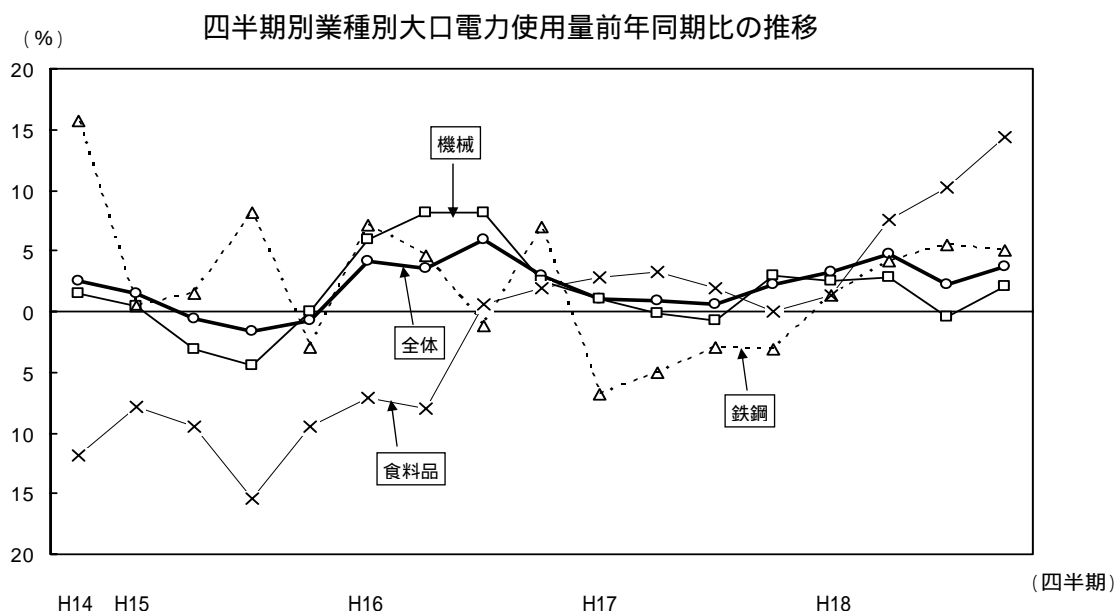
## (2) 大口電力使用量

平成18年第4四半期(10月～12月期)の大口電力(契約電力500KW以上)使用量は11億9,134万KWhで、前年同期比3.7%の増加となり、平成16年第1四半期以降、12期連続の増加となった。

主要業種別にみると、食料品分野は前年同期比が14.4%の増加となり、平成16年第3四半期以降、10期連続の増加となった。機械分野は前年同期比が2.0%の増加となり、2期ぶりに増加となった。鉄鋼分野は前年同期比が5.1%の増加となり、4期連続の増加となった。



(資料:(株)東北電力宮城支店「業務資料」)



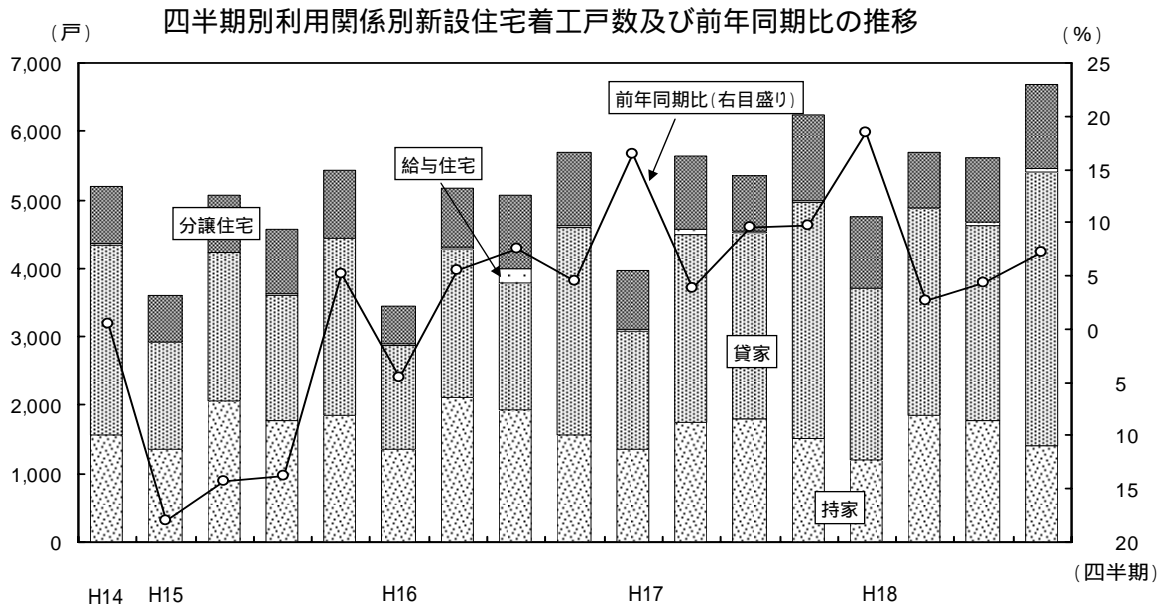
(資料:(株)東北電力宮城支店)

# 建設投資

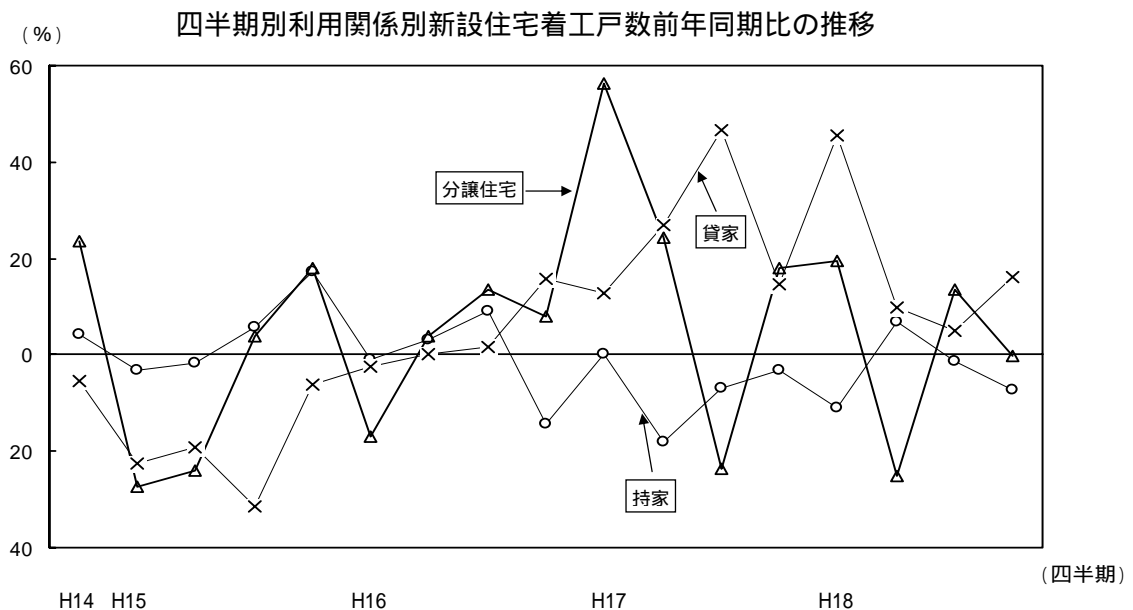
## (1) 新設住宅着工戸数

平成18年第4四半期(10月～12月期)の新設住宅着工戸数は6,699戸で、前年同期比7.3%の増加となり、平成16年第2四半期以降、11期連続の増加となった。

利用関係別にみると、持家(建築主が自分で居住する目的で建築するもの)は前年同期比が7.1%の減少となり、2期連続の減少となった。貸家(建築主が賃貸する目的で建築するもの)は前年同期比が16.1%の増加となり、平成16年第2四半期以降、11期連続の増加となった。分譲住宅(建売または分譲の目的で建築するもの)は前年同期比が0.2%の減少となり、2期ぶりに減少となった。



(資料:国土交通省)

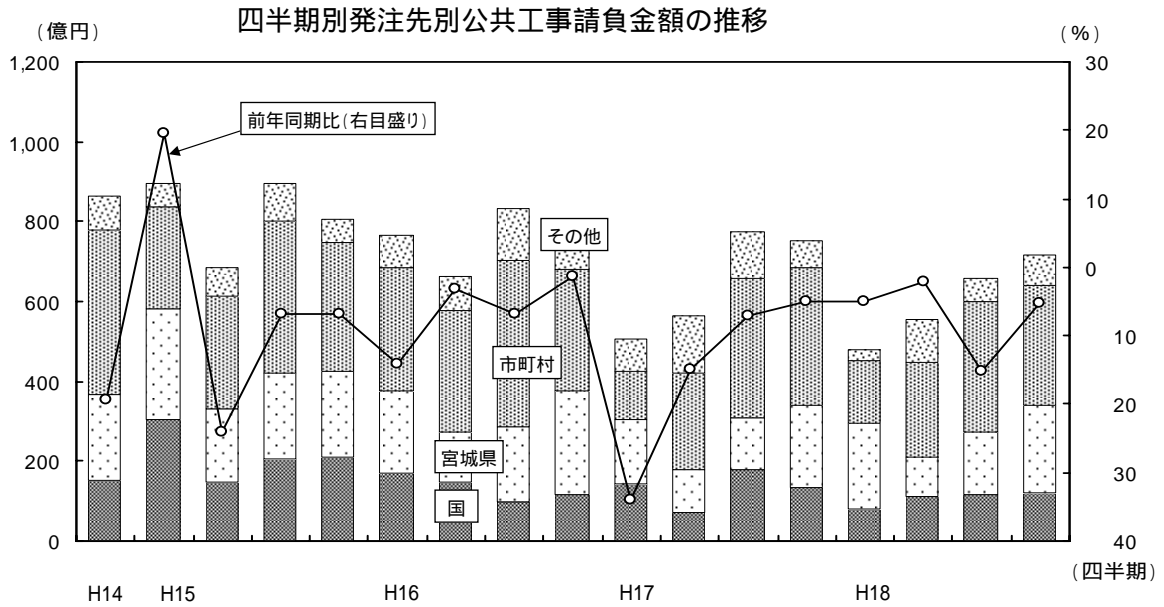


(資料:国土交通省)

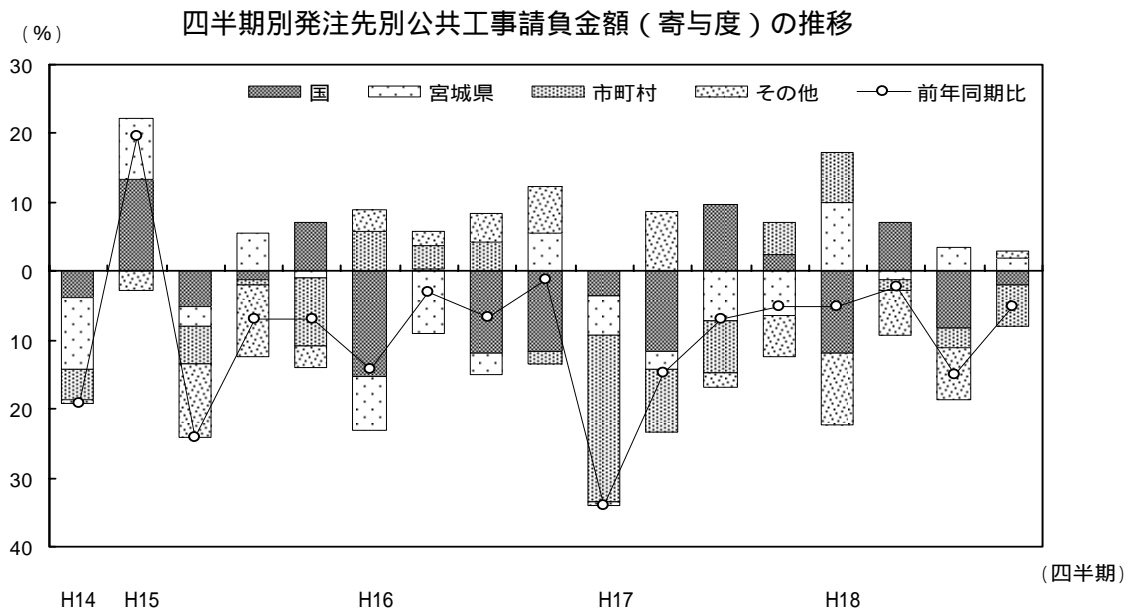
## (2) 公共工事請負金額

平成18年第4四半期(10月～12月期)の公共工事請負金額は715億1,500万円で、前年同期比5.2%の減少となり、平成15年第2四半期以降、15期連続の減少となった。

発注者別にみると、国は前年同期比が11.3%の減少となり、2期連続の減少となった。宮城県は前年同期比が6.6%の増加となり、2期連続の増加となった。市町村は前年同期比が13.0%の減少となり、3期連続の減少となった。



(資料:東日本建設業保証(株))



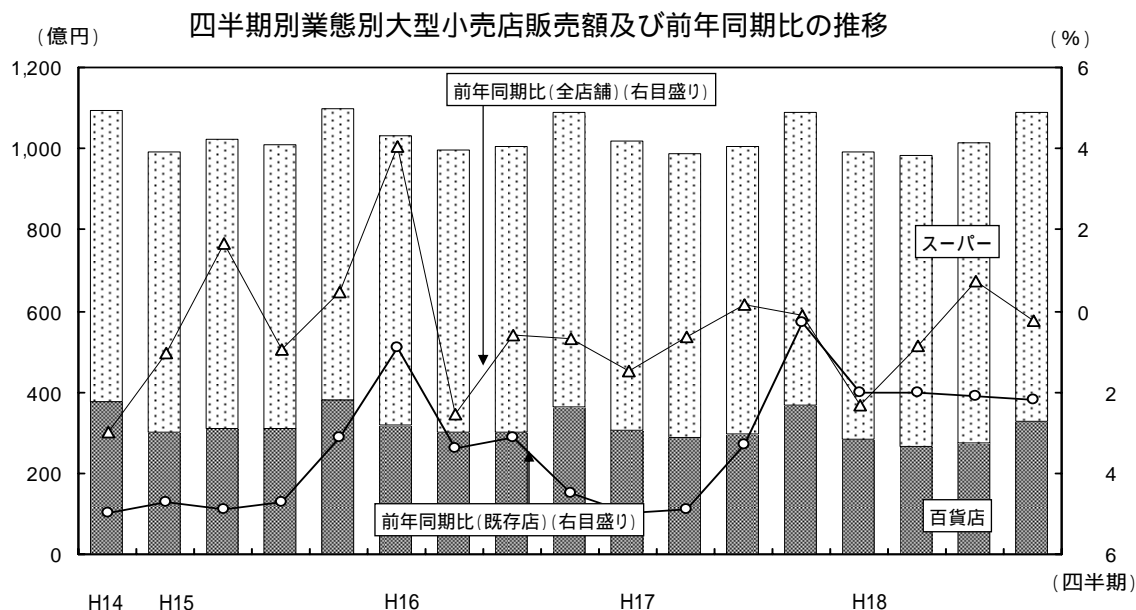
(資料:東日本建設業保証(株))

# 個人消費

## (1) 大型小売店販売額

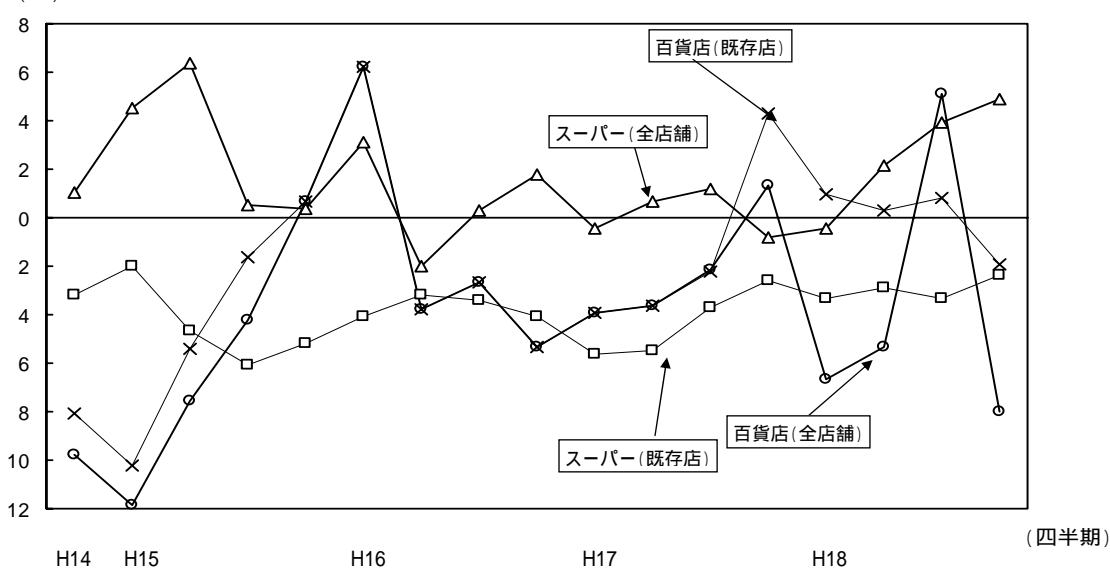
平成18年第4四半期(10月～12月期)の大型小売店販売額は、1,087億5,100万円で、前年同期比(既存店比較)は2.2%の減少となり、平成11年第4四半期以降、29期連続の減少となった。

業態別にみると、百貨店の販売額は327億9,800万円で、前年同期比(既存店比較)が1.9%の減少となり、5期ぶりに減少となった。スーパーの販売額は759億5,300万円で、前年同期比(既存店比較)が2.4%の減少となり、平成11年第4四半期以降、29期連続の減少となった。全店舗比較では前年同期比が4.9%の増加となり、3期連続の増加となった。



(資料:東北経済産業局)

四半期別業態別大型小売店販売額前年同期比(全店舗、既存店比較)の推移

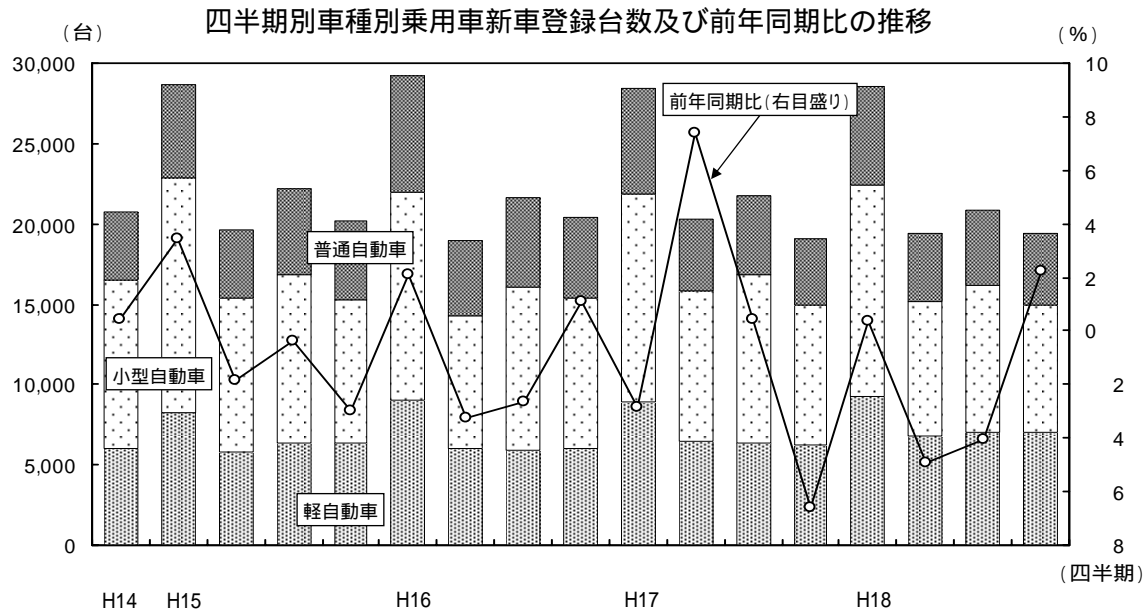


(資料:東北経済産業局)

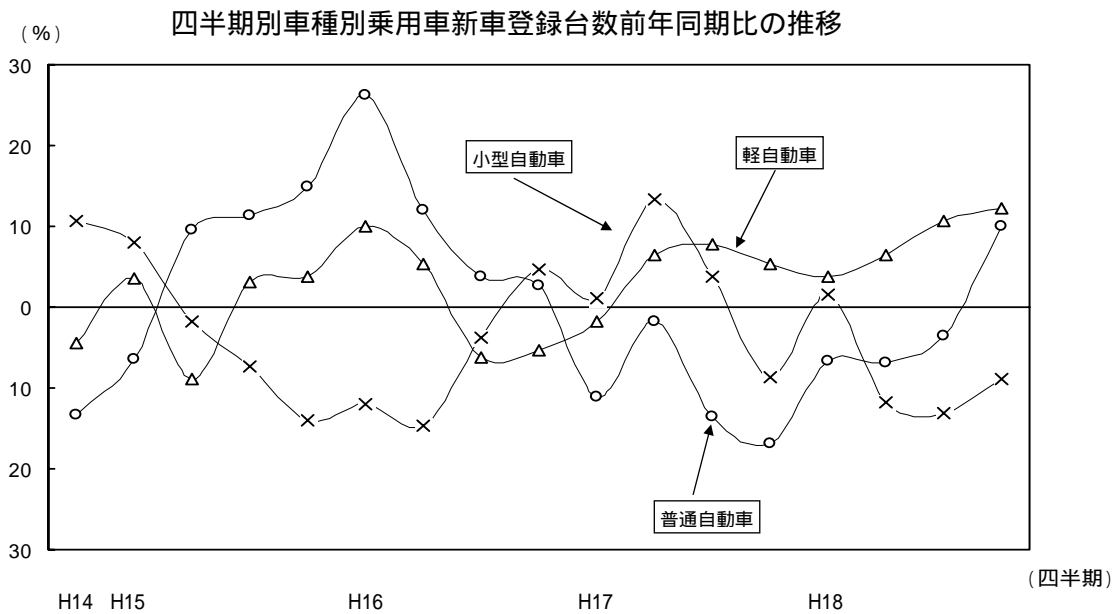
## (2) 乗用車新車登録台数

平成18年第4四半期(10月～12月期)の軽自動車の新車届出台数を合わせた乗用車新車登録台数は1万9,440台で、前年同期比2.2%の増加となり、3期ぶりに増加となった。

車種別にみると、普通車(排気量2,000cc超)は前年同期比が10.0%の増加となり、8期ぶりに増加となった。小型車(排気量2,000cc以下)は前年同期比が8.8%の減少となり、3期連続の減少となった。軽自動車(排気量660cc未満)は前年同期比が12.3%の増加となり、平成17年第2四半期以降、7期連続の増加となった。



(資料:自動車販売協会連合会宮城県支部、全国軽自動車協会連合会)



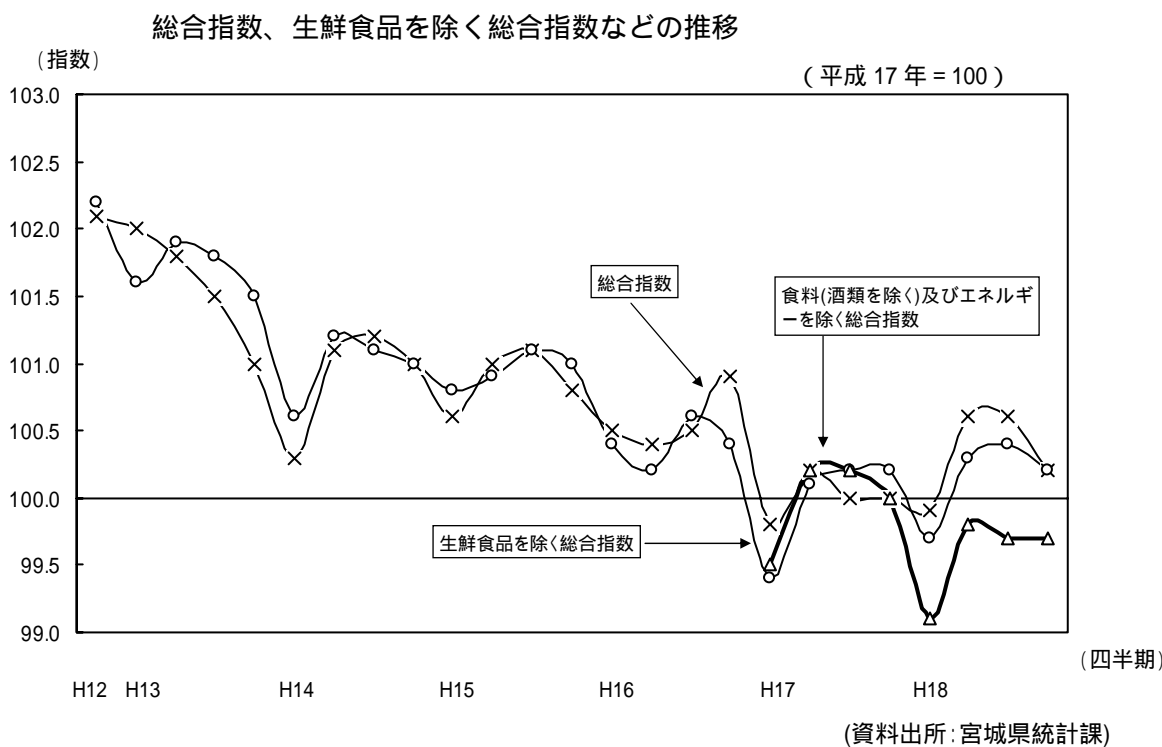
(資料:自動車販売協会連合会宮城県支部、全国軽自動車協会連合会)



# 物 価

## (消費者物価指数)

平成 18 年第 4 四半期(10 月～12 月期平均)の仙台市消費者物価指数(平成 17 年 = 100)の総合指数は 100.2 で、前年同期比 0.2%の上昇となり、4 期連続の上昇となった。生鮮食品を除く総合指数は 100.2 で、前年同期比と同値となった。食料(酒類を除く)及びエネルギーを除く総合指数は 99.7 で、前年同期比 0.3%の低下となり、項目設定以来 4 期連続の低下となった。

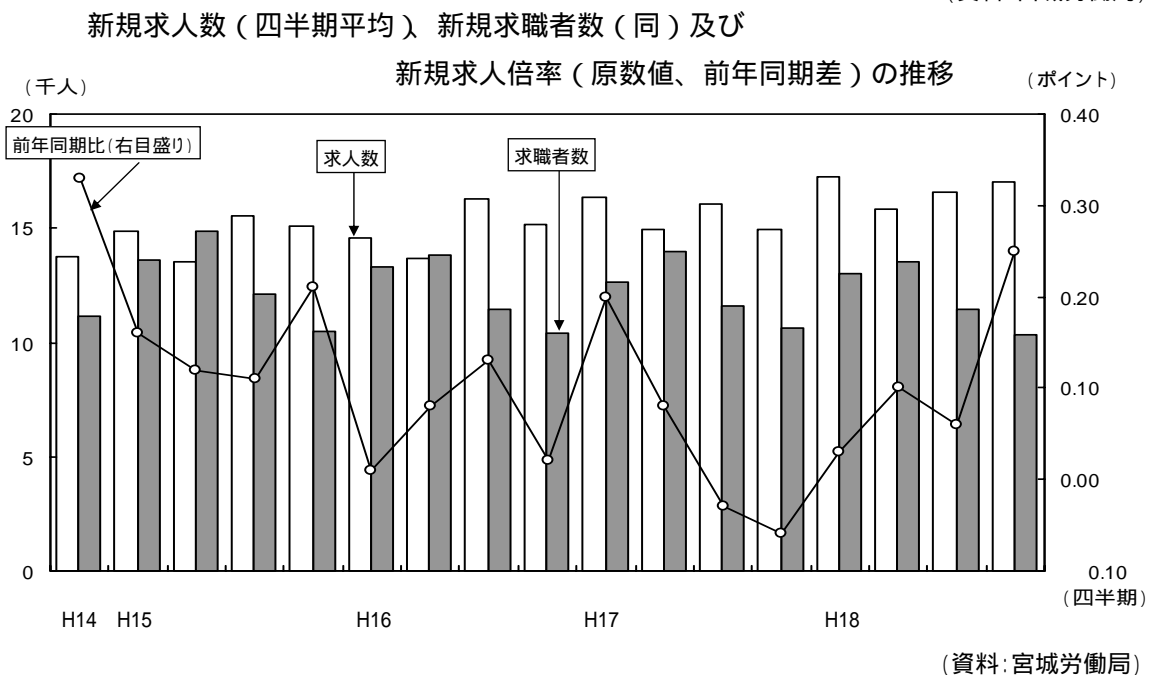
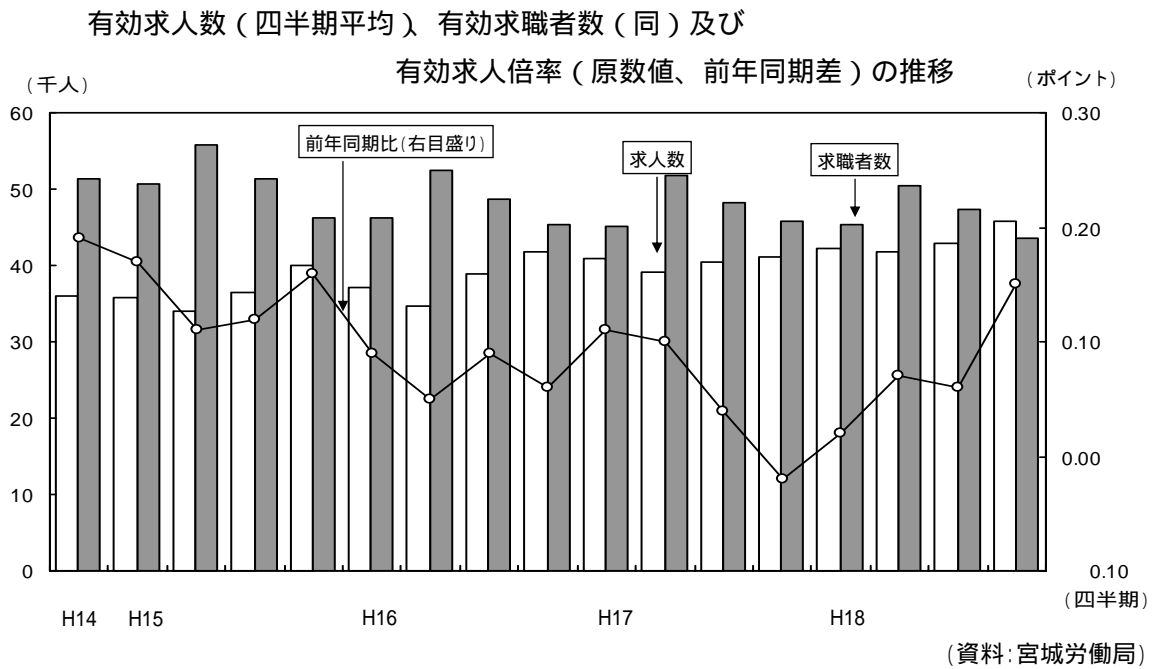


# 雇 用

## (1) 有効求人倍率及び新規求人倍率

平成 18 年第 4 四半期(10 月～12 月期)の有効求人数(月平均値)は 4 万 5,772 人で、前年同期比 11.5%の増加となった。有効求職者数(同)は 4 万 3,521 人で、前年同期比 5.0%の減少となった。有効求人倍率(原数値)は 1.05 倍で前年同期差は、0.15 ポイント上昇し、4 期連続の上昇となった。

新規求人数(月平均値)は 1 万 6,989 人で、前年同期比 14.0%の増加となった。新規求職申込件数(同)は 1 万 313 人で、前年同期比 2.9%の減少となった。新規求人倍率(原数値)は 1.65 倍で前年同期差は、0.25 ポイント上昇し、4 期連続の上昇となった。

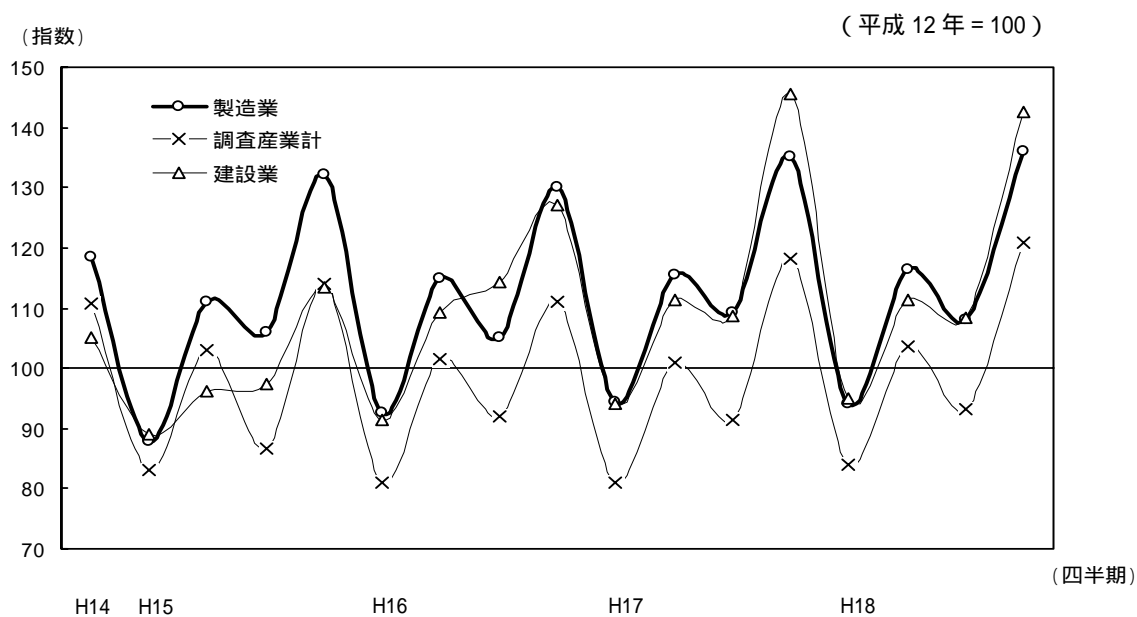


## (2) 賃金

平成 18 年第 4 四半期(10 月～12 月期)の実質賃金指数(平成 12 年 = 100)の調査産業計(事業所規模 30 人以上)は 120.8 で前年同期比 2.3%の上昇となり、5 期連続の上昇となった。

主要業種別にみると、製造業(事業所規模 30 人以上)は 135.9 で前年同期比が 0.7%の上昇となり、2 期ぶりに上昇となった。建設業(事業所規模 30 人以上)は 142.6 で前年同期比が 1.9%の低下となり、3 期連続の低下となった。

四半期別主要業種別実質賃金指数の推移(事業所規模 30 人以上)



(資料出所:宮城県統計課)

# 倒産

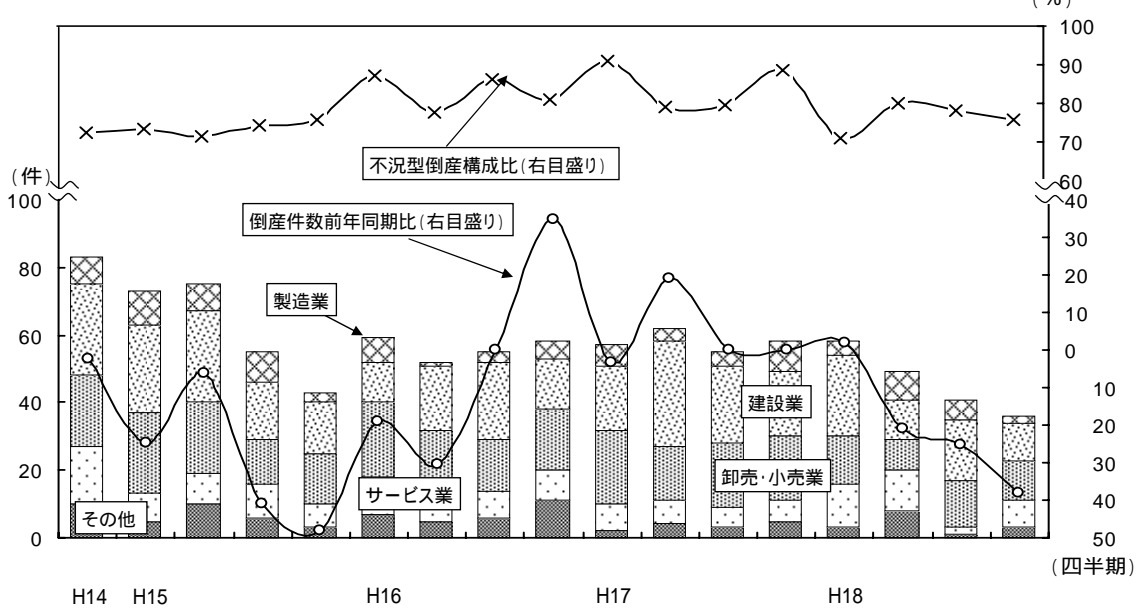
## (企業倒産)

平成18年第4四半期(10月～12月期)の宮城県内の企業倒産(負債総額1千万以上)の件数は36件で、前年同期比37.9%の減少となり、3期連続の減少となった。負債総額は112億6,600万円で、前年同期比56.5%の減少となり、2期連続の減少となった。

これらのうちの不況型倒産(販売不振、売掛金回収困難、赤字累積)の件数は26件で、前年同期比40.9%の減少となった。件数の構成比は72.2%で前年同期より3.7ポイント低下となった。

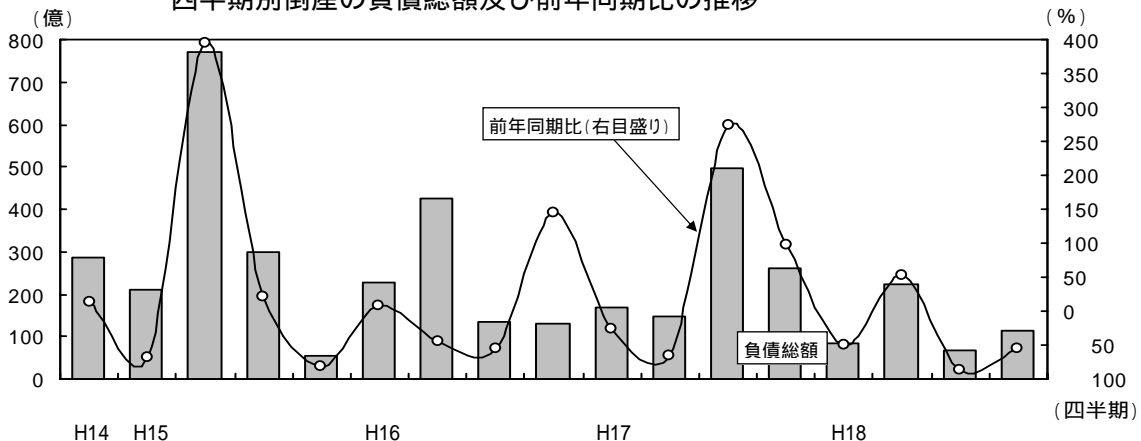
大型倒産(負債総額10億円以上)は1件発生し、負債総額は、58億2,300万円であった。

四半期別倒産件数及び前年同期比と不況型倒産構成比の推移



(資料:(株)東京商工リサーチ)

四半期別倒産の負債総額及び前年同期比の推移



(資料:(株)東京商工リサーチ)